

地 域 経 済 動 向

令和4年6月2日



内閣府政策統括官
(経済財政分析担当)

目 次

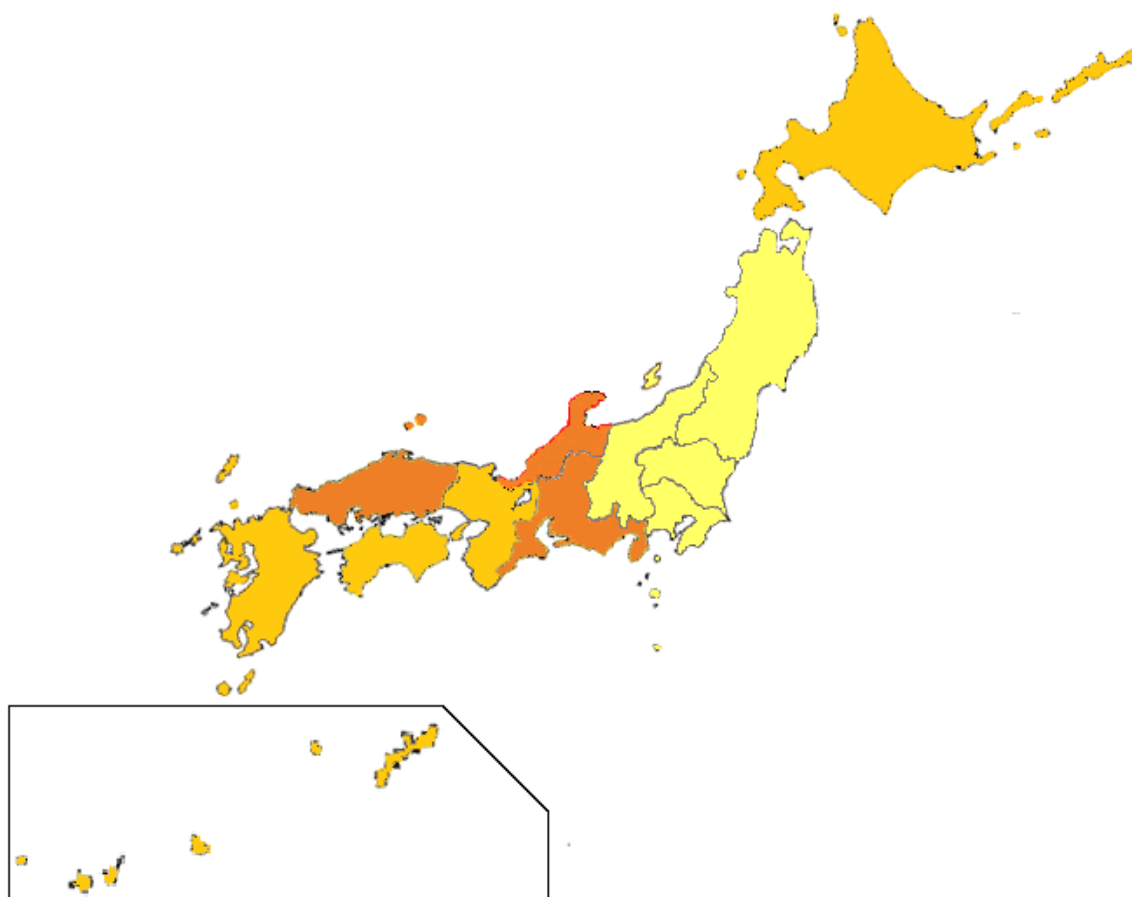
- 1 概況
- 2 分野別の動き
- 3 地域別の動向
 - (1) 北海道
 - (2) 東北
 - (3) 北関東
 - (4) 南関東
 - (5) 甲信越
 - (6) 東海
 - (7) 北陸
 - (8) 近畿
 - (9) 中国
 - (10) 四国
 - (11) 九州
 - (12) 沖縄
 - (13) 景気ウォッチャー調査(令和4年4月調査)
景気判断理由の概要
- 4 主要指標
- 5 参考資料

1 概況

(1) 各地域の景況判断

地域別の景況判断（景気の変化方向）は以下のとおり。

- ・北海道地域は、持ち直しの動きがみられる。
- ・東北地域は、持ち直しに足踏みがみられる。
- ・北関東地域は、持ち直しに足踏みがみられる。
- ・南関東地域は、持ち直しに足踏みがみられる。
- ・甲信越地域は、持ち直しに足踏みがみられる。
- ・東海地域は、緩やかに持ち直している。
- ・北陸地域は、緩やかに持ち直している。
- ・近畿地域は、持ち直しの動きがみられる。
- ・中国地域は、緩やかに持ち直している。
- ・四国地域は、持ち直しの動きがみられる。
- ・九州地域は、持ち直しの動きがみられる。
- ・沖縄地域は、持ち直しの動きがみられる。



- ・緩やかに持ち直している　－　東海、北陸、中国
- ・持ち直しの動きがみられる　－　北海道、近畿、四国、九州、沖縄
- ・持ち直しに足踏みがみられる　－　東北、北関東、南関東、甲信越

(注) 上図は、景気の変化方向の記述（緩やかに回復している、持ち直している等）に基づき、分類・色分けしている。

本報告書では、原則として下記の地域区分を採用している。ただし、下記地域区分によらない場合は備考にその旨を明記している。

地域名	都道府県名	
北海道	北海道	
東北	青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島	
関東	北関東	茨城、栃木、群馬
	南関東	埼玉、千葉、東京、神奈川
甲信越	新潟、山梨、長野	
東海	静岡、岐阜、愛知、三重	
北陸	富山、石川、福井	
近畿	滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山	
中国	鳥取、島根、岡山、広島、山口	
四国	徳島、香川、愛媛、高知	
九州	福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島	
沖縄	沖縄	

(2) 各地域の景況判断と主要変更点

		北海道	東北	北関東	南関東	甲信越	東海
景況判断	3月 (前回)	新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が残る中で、持ち直しに足踏みがみられる	持ち直しの動きとなっているものの、新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が残る中で、一部に弱さがみられる	持ち直しの動きとなっているものの、新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が残る中で、一部に弱さがみられる	持ち直しの動きとなっているものの、新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が残る中で、一部に弱さがみられる	新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が残る中で、持ち直しに足踏みがみられる	持ち直しの動きとなっているものの、新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が残る中で、一部に弱さがみられる
	6月 (今回)	持ち直しの動きがみられる	持ち直しに足踏みがみられる	持ち直しに足踏みがみられる	持ち直しに足踏みがみられる	持ち直しに足踏みがみられる	緩やかに持ち直している
		↑	↓	↓	↓	⇒	↑
鉱工業生産 (沖縄は観光)	3月	持ち直しに足踏みがみられる	緩やかに持ち直している	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きがみられる	持ち直しに足踏みがみられる	緩やかに持ち直している
	6月	持ち直しの動きがみられる	持ち直しに足踏みがみられる	持ち直しに足踏みがみられる	持ち直しに足踏みがみられる	持ち直しに足踏みがみられる	緩やかに持ち直している
個人消費	3月	このところ持ち直しに足踏みがみられる	このところ持ち直しに足踏みがみられる	このところ持ち直しに足踏みがみられる	このところ持ち直しに足踏みがみられる	このところ持ち直しに足踏みがみられる	このところ持ち直しに足踏みがみられる
	6月	このところ持ち直しの動きがみられる	このところ持ち直しの動きがみられる	このところ持ち直しの動きがみられる	このところ持ち直しの動きがみられる	このところ持ち直しの動きがみられる	このところ持ち直しの動きがみられる
雇用情勢	3月	感染症の影響が残る中で、引き続き弱い動きとなっているものの、求人等に持ち直しの動きもみられる	感染症の影響が残る中で、引き続き弱い動きとなっているものの、求人等は緩やかに持ち直している	感染症の影響が残る中で、引き続き弱い動きとなっているものの、求人等は緩やかに持ち直している	感染症の影響が残る中で、引き続き弱い動きとなっているものの、求人等に持ち直しの動きもみられる	感染症の影響が残る中で、引き続き弱い動きとなっているものの、求人等は緩やかに持ち直している	感染症の影響が残る中で、引き続き弱い動きとなっているものの、求人等は緩やかに持ち直している
	6月	持ち直しの動きがみられる	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	持ち直しの動きがみられる	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している

(注) は上方に判断を変更、 は変更なし、 は下方に判断を変更。

北 陸	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
持ち直しの動きとなっているものの、新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が残る中で、一部に弱さがみられる	新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が残る中で、持ち直しに足踏みが見られる	持ち直しの動きとなっているものの、新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が残る中で、一部に弱さがみられる	新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が残る中で、持ち直しに足踏みが見られる	新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が残る中で、持ち直しに足踏みが見られる	新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が残る中で、持ち直しの動きに弱さがみられる
緩やかに持ち直している	持ち直しの動きが見られる	緩やかに持ち直している	持ち直しの動きが見られる	持ち直しの動きが見られる	持ち直しの動きが見られる
↑	↑	↑	↑	↑	↑
緩やかに持ち直している	持ち直しに足踏みが見られる	緩やかに持ち直している	持ち直しに足踏みが見られる	持ち直しに足踏みが見られる	このところ弱含んでいる
緩やかに持ち直している	持ち直しの動きが見られる	緩やかに持ち直している	持ち直しの動きが見られる	持ち直しの動きが見られる	持ち直しの動きが見られる
このところ持ち直しに足踏みが見られる	このところ持ち直しに足踏みが見られる	このところ持ち直しに足踏みが見られる	このところ持ち直しに足踏みが見られる	このところ持ち直しに足踏みが見られる	このところ持ち直しに足踏みが見られる
このところ持ち直しの動きが見られる	このところ持ち直しの動きが見られる	このところ持ち直しの動きが見られる	このところ持ち直しの動きが見られる	このところ持ち直しの動きが見られる	このところ持ち直しの動きが見られる
感染症の影響が残る中で、引き続き弱い動きとなっているものの、求人等は緩やかに持ち直している	感染症の影響が残る中で、引き続き弱い動きとなっているものの、求人等に持ち直しの動きもみられる	感染症の影響が残る中で、引き続き弱い動きとなっているものの、求人等は緩やかに持ち直している	感染症の影響が残る中で、引き続き弱い動きとなっているものの、求人等は緩やかに持ち直している	感染症の影響が残る中で、引き続き弱い動きとなっているものの、求人等は緩やかに持ち直している	感染症の影響が残る中で、引き続き弱い動きとなっているものの、求人等に持ち直しの動きもみられる
緩やかに持ち直している	持ち直しの動きが見られる	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	持ち直しの動きが見られる

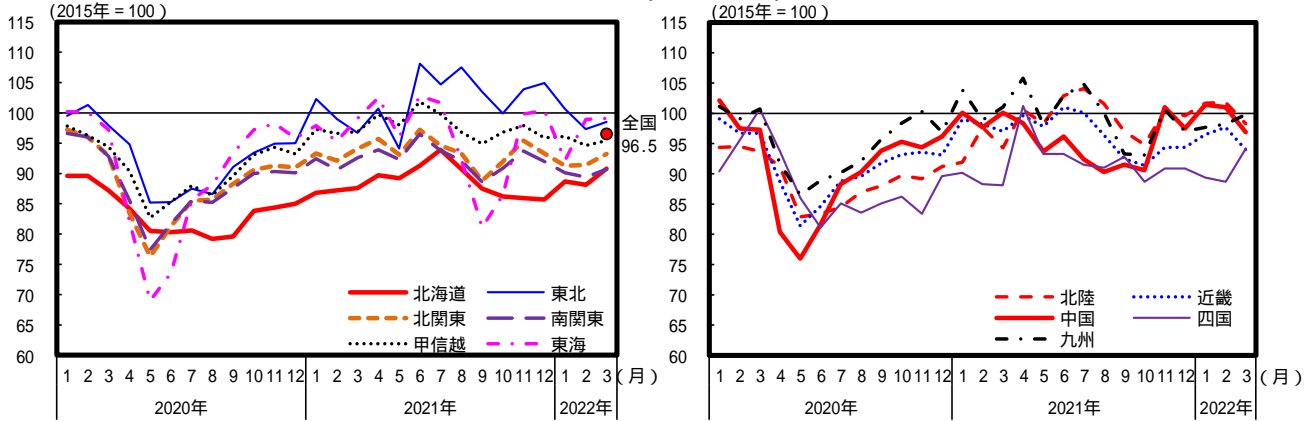
2 分野別の動き

<生産> 東海、北陸、中国は緩やかに持ち直している。北海道、近畿、四国、九州は持ち直しの動きがみられる。東北、北関東、南関東、甲信越は持ち直しに足踏みがみられる。

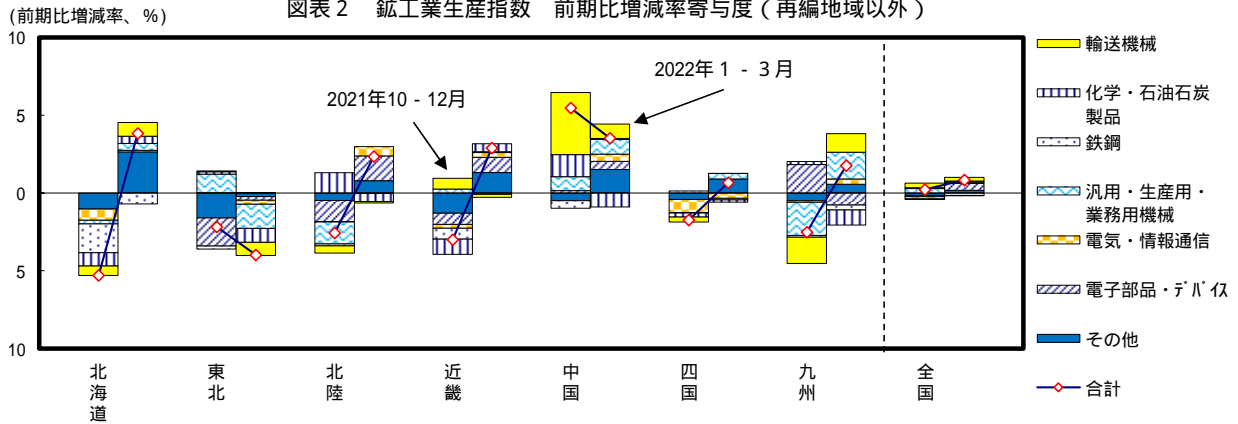
鉱工業生産指数（季節調整値）について、2022年1 - 3月期の動きをみると、東北（前期比4.0）、南関東（同 2.3）等でマイナスとなった一方、北海道（同 3.8）、中国（同 3.5）等で前期比プラスとなった。電子部品・デバイス（電子デバイス等）の増加が上昇に寄与した地域がみられた（図表1～3）。

各地域の宿泊稼働率は、前年の水準をおおむね上回っている（図表4）。

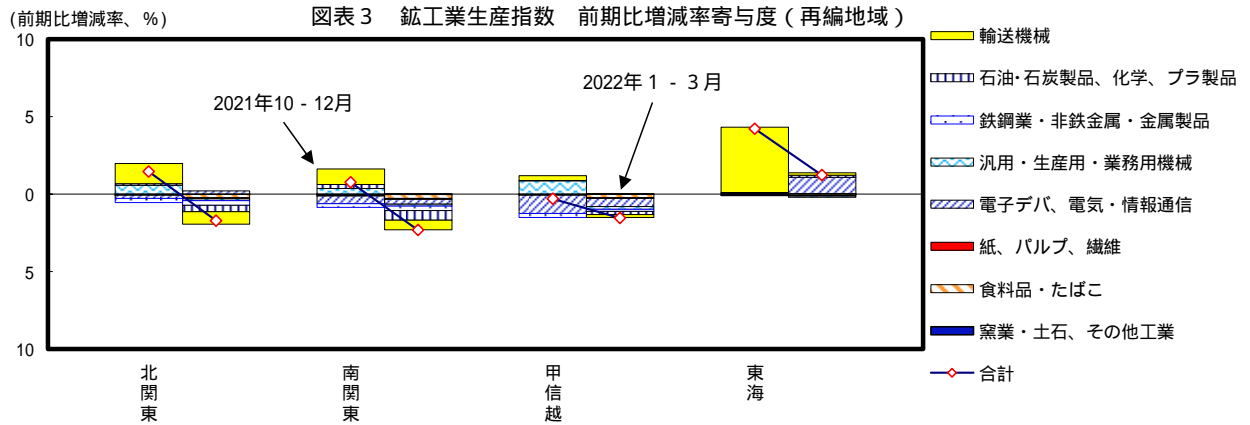
図表1 鉱工業生産指数（季節調整値）の推移



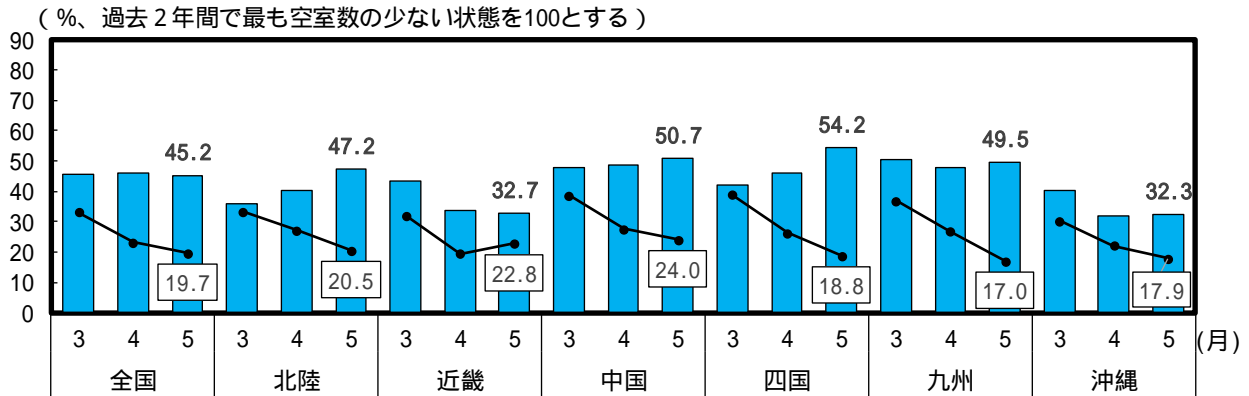
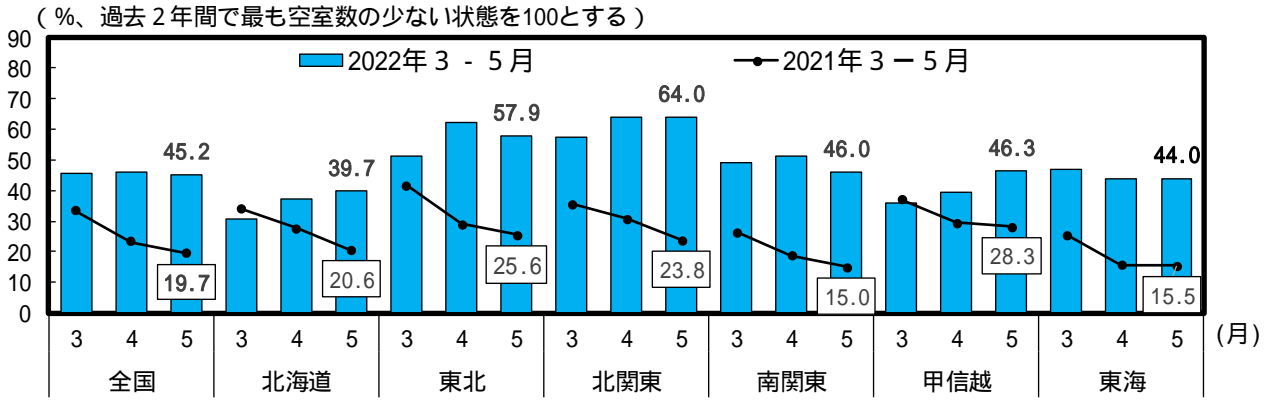
図表2 鉱工業生産指数 前期比増減率寄与度（再編地域以外）



図表3 鉱工業生産指数 前期比増減率寄与度（再編地域）



図表4 宿泊稼働率



(備考) 図表1、2、3：経済産業省、各経済産業局、中部経済産業局電力・ガス事業北陸支局「鉱工業生産動向」により作成。基準年は2015年。季節調整値。

北関東、南関東、甲信越は関東経済産業局の「鉱工業生産の動向」、東海は中部経済産業局の「管内鉱工業の動向」、関東経済産業局の「鉱工業生産の動向」により内閣府にて算出。

図表1：全国の3月の値は確報値。その他地域の3月の値は速報値。

図表2：全国、東北、北陸、近畿の「汎用・生産用・業務用機械」は生産用機械、汎用・業務用機械を足したもの。北海道の「汎用・生産用・業務用機械」は一般機械。全国、近畿、中国の「化学・石油石炭製品」は化学と石油・石炭製品を足したもの。全国、東北の「電気・情報通信」は電気機械と情報通信機械を足したもの。

図表4：公益財団法人九州経済調査協会「DATASALAD」稼働状況指数により作成。5月26日までのデータを使用。
 当日の稼働状況指数(%) = 100 - ((当日の空室数 - 当日を含む過去730日の最小空室数) / (当日を含む過去730日の最大空室数 - 当日を含む過去730日の最小空室数)) * 100。各月の稼働状況指数は、当該月内の日次の稼働状況指数の平均値。

当該地域において、過去365日以上連続して立地・稼働していると判定される宿泊施設を対象として指数を算出。

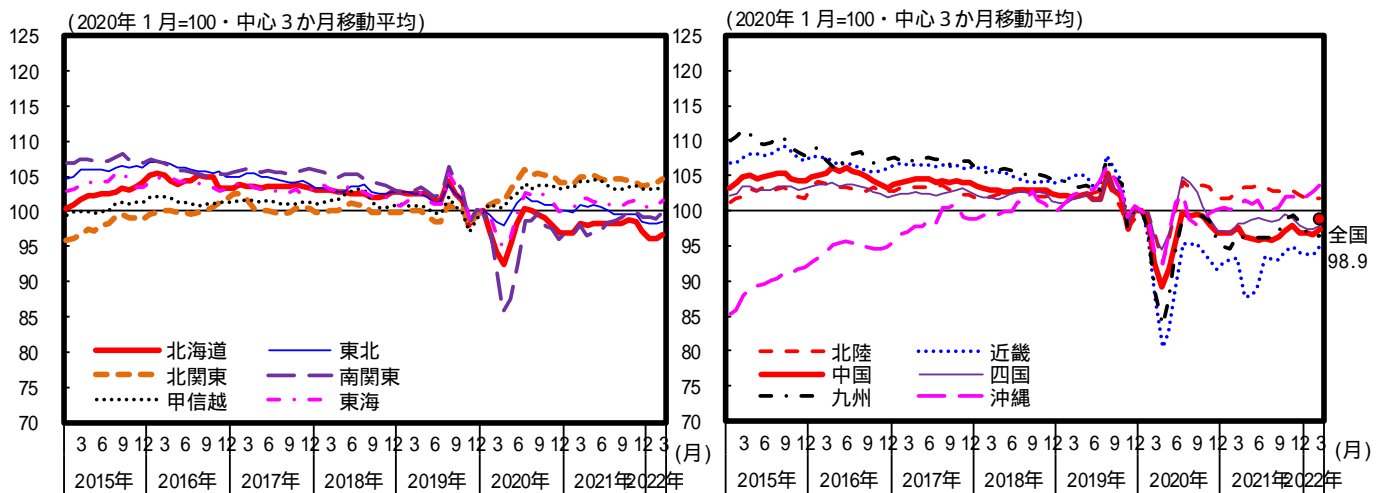
<消費> 個人消費はこのところ持ち直しの動きがみられる。

消費について、2022年1-3月期の百貨店・スーパー販売額(実質・季節調整値)の動きをみると、沖縄(前期比0.7)、北関東(同0.0)等で全国(同1.1)を上回る一方、九州(同3.3)、北海道(同2.4)は下回った(図表1)。

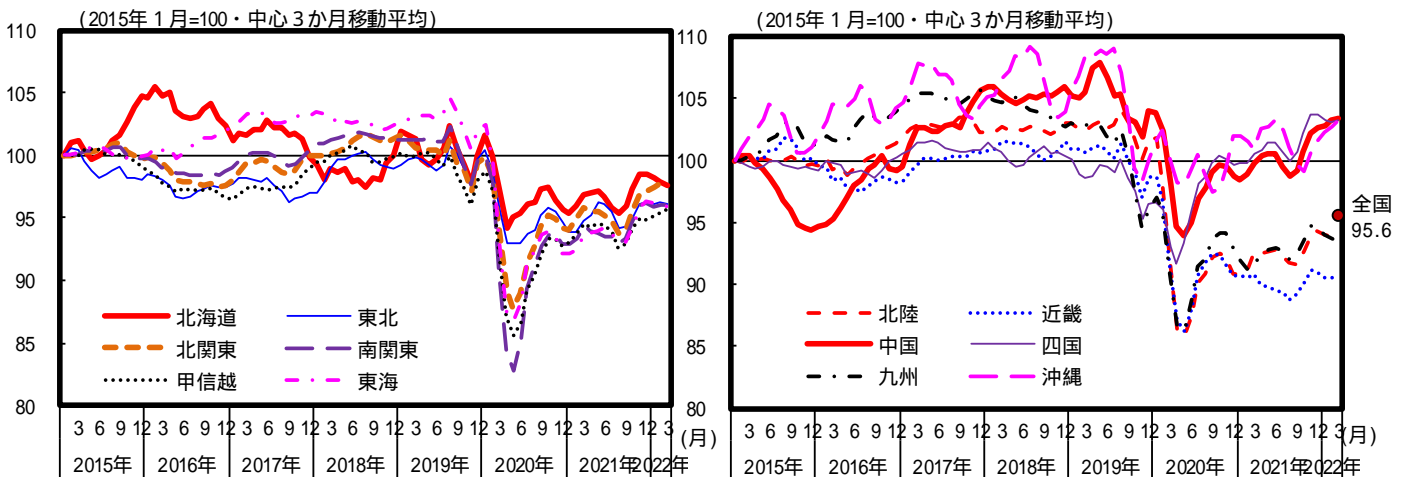
地域別消費総合指数(実質・季節調整値)は、2022年1月は全ての地域で低下した。2月は多くの地域で低下したが、3月には全ての地域で上昇した(図表2)。

カード支出に基づく消費動向をみると、まん延防止等重点措置の解除以降、財支出は底堅く、サービス支出はいずれの地域も2月を底に上向き基調(図表3)。

図表1 百貨店・スーパー販売額(実質・季節調整値)の推移



図表2 地域別消費総合指数(実質・季節調整値)の推移



(備考) 図表1: 経済産業省「商業動態統計」、総務省「消費者物価指数」により作成し、内閣府にて季節調整。

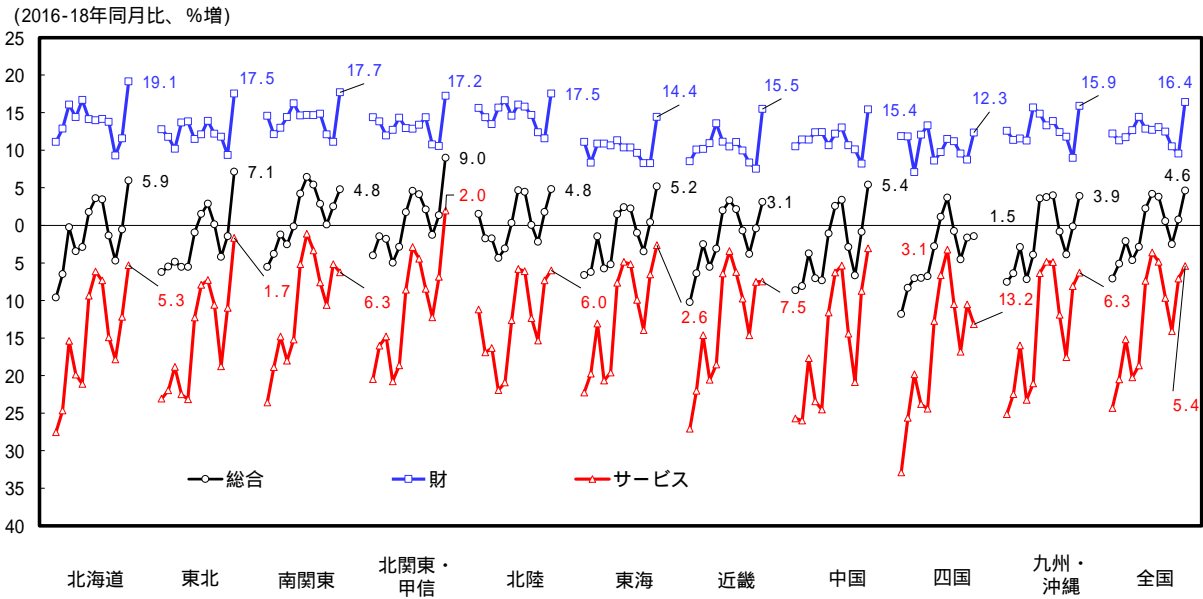
北関東、南関東、甲信越、北陸の消費者物価指数は、総務省「消費者物価指数」の各都道府県の県庁所在都市別の消費者物価指数を、総務省「国勢調査」の二人以上世帯数を用いて加重平均し、内閣府にて作成。なお、消費者物価指数は、総合指数による。直近月は、2か月平均。

図表2: 内閣府「地域別支出総合指数(RDEI)」により作成。季節調整値。

図表3 カード支出に基づく消費動向（月次）

（2021年5月～2022年4月）

【総合、財、サービス】



- (備考) 1. 株式会社ナウキャスト、株式会社ジェーシービー「JCB消費NOW」により作成。「2016-18年同月比」とは、2016-18年度の同期の平均からの変化率。
 2. 渡辺努「クレジットカード支出金額の『一人当たり支出金額』と『支出者数』への分解」(2020年4月)の参考系列。

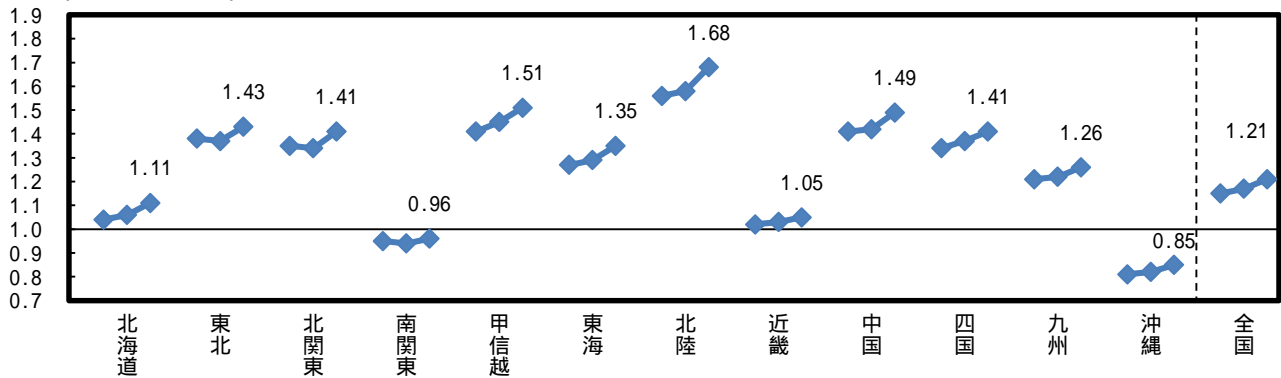
<雇用> 東北、北関東、甲信越、東海、北陸、中国、四国、九州は緩やかに持ち直している。

北海道、南関東、近畿、沖縄は持ち直しの動きがみられる。

雇用情勢について、2022年1-3月期の有効求人倍率(就業地別・季節調整値)をみると、東北、北関東、甲信越、東海、北陸、中国、四国、九州では、全国を上回っている(図表1)。日次有効求人件数をみると、全地域で上昇が続いている(図表2)。

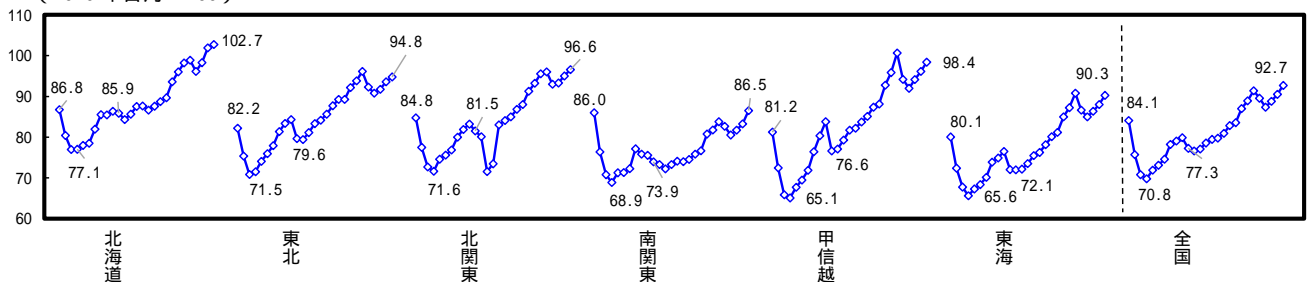
図表1 有効求人倍率(就業地別)(2021年7-9月期 10-12月期 2022年1-3月期)

(季節調整値、倍)

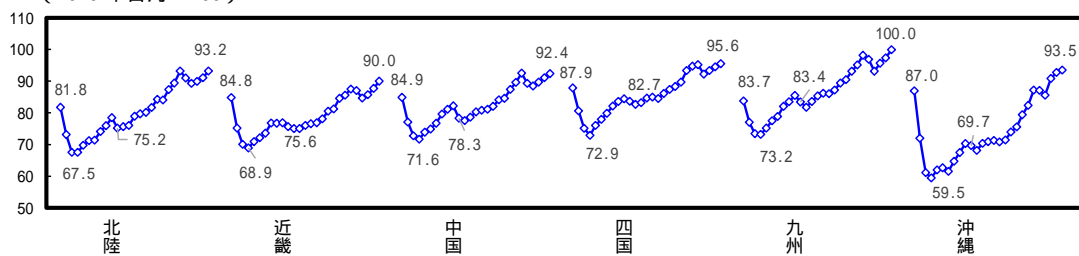


図表2 日次有効求人件数の推移(2020年3月 2022年5月)

(2019年各月=100)



(2019年各月=100)



(備考) 図表1: 厚生労働省「一般職業紹介状況」により作成。

図表2: 公益財団法人九州経済調査協会「DATASALAD」により作成。

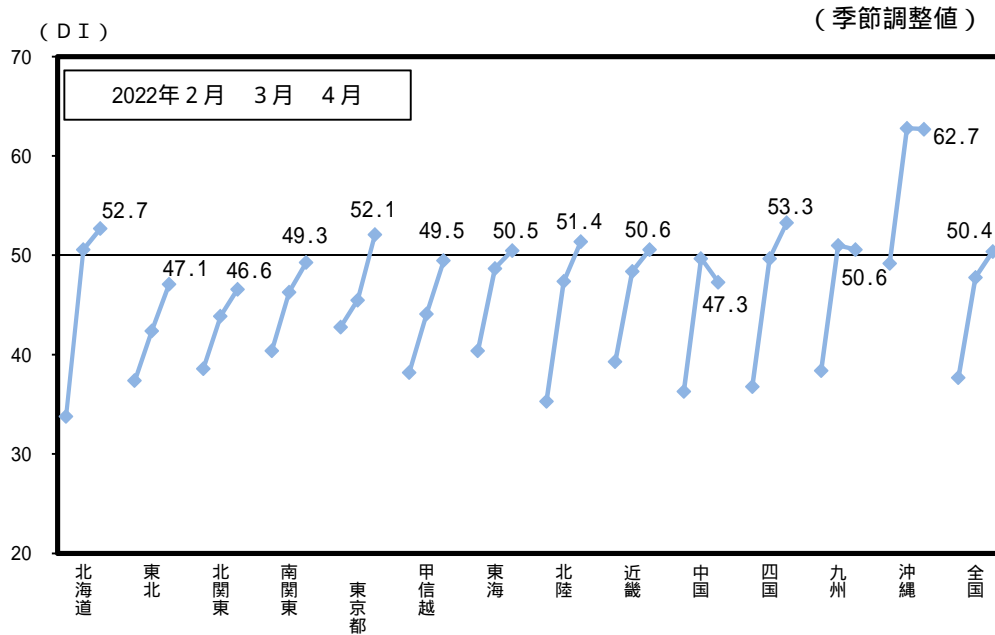
各月における最も有効求人件数が多かった日の求人件数をその月の有効求人件数としている。

2020年3月、2020年6月、2021年1月、2022年5月の数値を表記。

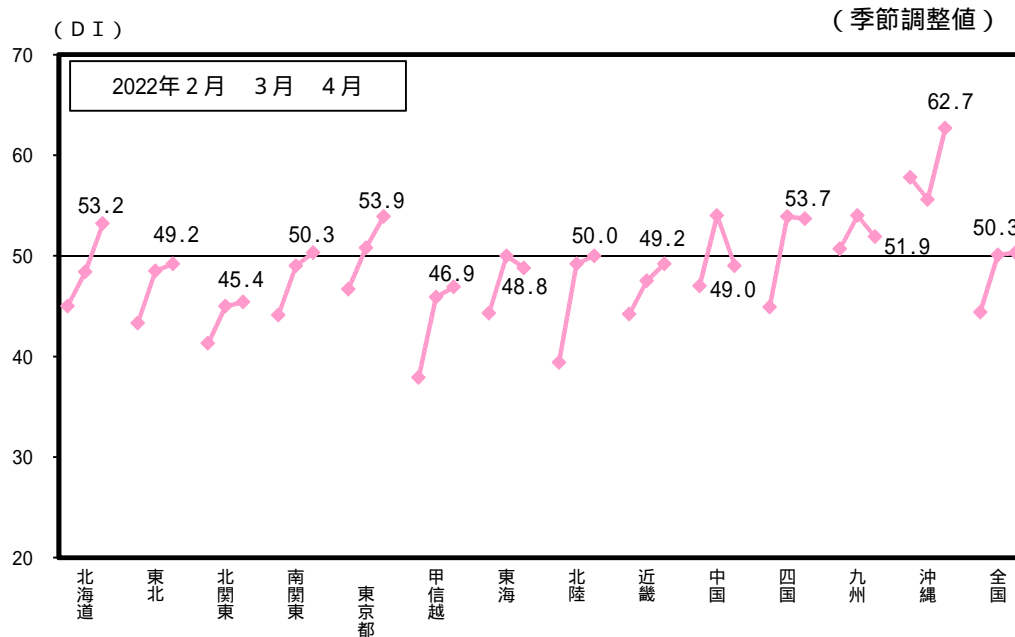
2022年5月の日次有効求人件数(実数)は、1~26日時点での2019年比で求めた。

< 足下の動き：景気ウォッチャー調査（令和4年4月調査）各地域の動向 >

地域別DIの推移（現状）



地域別DIの推移（先行き）



(備考) 内閣府「景気ウォッチャー調査」(令和4年4月調査、調査期間：4月25日～30日)を基に作成。

景気の現状判断D I（季節調整値）

前月と比較しての現状判断D I（各分野計）は、全国 12 地域中、9 地域で上昇、3 地域で低下であった。最も上昇幅が大きかったのは甲信越（5.4 ポイント上昇）で、最も低下幅が大きかったのは中国（2.4 ポイント低下）であった。

景気の現状判断D I（各分野計）(季節調整値)							
(D I)	年	2021		2022			
	月	11	12	1	2	3	4 (前月差)
全国		56.8	57.5	37.9	37.7	47.8	50.4 (2.6)
北海道		57.0	59.2	35.8	33.8	50.6	52.7 (2.1)
東北		55.1	55.6	40.3	37.4	42.4	47.1 (4.7)
関東		55.6	57.0	39.3	39.9	45.6	48.6 (3.0)
北関東		54.2	53.0	38.4	38.6	43.9	46.6 (2.7)
南関東		56.1	58.4	39.7	40.4	46.3	49.3 (3.0)
東京都		62.2	62.6	42.5	42.8	45.5	52.1 (6.6)
甲信越		58.2	61.0	35.3	38.2	44.1	49.5 (5.4)
東海		55.7	57.5	38.3	40.4	48.7	50.5 (1.8)
北陸		57.4	57.6	38.7	35.3	47.4	51.4 (4.0)
近畿		57.3	58.7	40.3	39.3	48.4	50.6 (2.2)
中国		57.5	57.0	36.6	36.3	49.7	47.3 (-2.4)
四国		59.4	62.1	41.1	36.8	49.7	53.3 (3.6)
九州		61.2	62.3	38.4	38.4	51.0	50.6 (-0.4)
沖縄		60.3	62.5	33.2	49.2	62.8	62.7 (-0.1)

景気の先行き判断D I（季節調整値）

前月と比較しての先行き判断D I（各分野計）は、全国 12 地域中、8 地域で上昇、4 地域で低下であった。最も上昇幅が大きかったのは沖縄（7.1 ポイント上昇）で、最も低下幅が大きかったのは中国（5.0 ポイント低下）であった。

景気の先行き判断D I（各分野計）(季節調整値)							
(D I)	年	2021		2022			
	月	11	12	1	2	3	4 (前月差)
全国		53.2	50.3	42.5	44.4	50.1	50.3 (0.2)
北海道		52.8	48.2	40.9	45.0	48.4	53.2 (4.8)
東北		52.7	48.6	40.1	43.3	48.5	49.2 (0.7)
関東		52.9	50.0	40.9	43.4	47.9	49.0 (1.1)
北関東		52.0	48.1	38.1	41.3	45.0	45.4 (0.4)
南関東		53.3	50.7	41.9	44.1	49.0	50.3 (1.3)
東京都		57.5	55.2	44.0	46.7	50.8	53.9 (3.1)
甲信越		55.0	51.5	41.2	37.9	45.9	46.9 (1.0)
東海		51.3	48.1	44.9	44.3	50.0	48.8 (-1.2)
北陸		52.8	48.5	38.5	39.4	49.2	50.0 (0.8)
近畿		51.3	49.4	41.9	44.2	47.5	49.2 (1.7)
中国		55.0	50.4	45.6	47.0	54.0	49.0 (-5.0)
四国		53.9	52.8	42.5	44.9	53.9	53.7 (-0.2)
九州		56.1	54.1	42.4	50.7	54.0	51.9 (-2.1)
沖縄		58.9	50.3	55.8	57.8	55.6	62.7 (7.1)